

北海道新幹線等新交通体系と観光資源の利活用に関する調査特別委員会（第10回）

令和3年2月22日（月曜日）午前10時00分開会

○案件

1. 報告書のまとめについて
 2. その他
-

○出席委員（7名）

委員長	田村敏郎	副委員長	川村主税
委員	神崎和枝	委員	上野武彦
委員	中川友規	委員	若山雅行
委員	青山金助		

○欠席委員（2名）

委員	平松俊一	委員	坂本繁
----	------	----	-----

○委員外議員（0名）

○出席説明員（0名）

午前10時00分 開会

○田村委員長 皆さんおはようございます。ただいまから、北海道新幹線等新交通体系と観光資源の利活用に関する調査特別委員会、10回目の会議を開催したいと思います。

まず、平松委員、坂本委員から本日の会議を欠席する旨の届出がありました。

また、川村委員より本日の会議を遅参する旨の届出がありました。

それでは、早速協議事項であります報告書のまとめについて、お手元にお配りしてございますので、事務局より読み上げて提案してまいりたいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 それでは、事務局のほうで。

事務局長。

○関口議会事務局長 それでは読み上げて提案させていただきます。

委員会報告第5号。北海道新幹線等新交通体系と観光資源の利活用に関する調査特別委員会報告書。

令和元年9月25日第3回定例会において設置された当特別委員会が、これまで調査した結果を下記のとおり報告する。

令和3年2月22日。七飯町議会議長木下敏様、北海道新幹線等新交通体系と観光資源の利活用に関する調査特別委員会委員長田村敏郎。

記

1、調査の経過及び内容。(1)令和元年9月25日に第1回目の委員会を開催し、委員長に田村敏郎委員、副委員長に川村主税委員をそれぞれ互選した。

(2)令和元年11月19日に第2回目の委員会を開催し、今後の調査、研究の進め方について協議を行った。

はじめに、町の観光資源について協議を行い、①赤松街道の利活用、②函館新幹線総合車両所の活用、③道の駅周辺の振興、④大沼国定公園の振興、⑤城岱牧場の利活用の5項目を中心に調査を行うこととした。

資料要求は、赤松街道・大沼国定公園の歴史に関する資料、函館新幹線総合車両所に関する資

料、北海道縦貫自動車道に関する資料、観光入込客数に関する資料、道の駅なないろ・ななえの入込客数、売上に関する資料とした。

次回の委員会において、これらの資料に関する説明の聴取を行うこととした。

(3)令和2年1月14日に第3回目の委員会を開催し、総務部長、政策推進課長、経済部長、商工観光課長、生涯教育課長、生涯教育課学芸員の出席を求め、提出のあった資料に基づき説明の聴取を行った。

生涯教育課学芸員から赤松街道の歴史及び大沼国定公園の歴史に関する説明、政策推進課長から函館新幹線総合車両所、北海道新幹線の札幌延伸の状況、北海道縦貫自動車道の現状、北海道縦貫自動車道、北海道新幹線建設促進に関する渡島総合開発期成会などの要望書に関する説明があった。

委員からは、函館新幹線総合車両所の一般公開の見通し、北海道縦貫自動車道の七飯インターチェンジ(仮称)から函館新道までの計画等についての質疑があり、函館新幹線総合車両所の一般公開については、施設を公開することや研修を受け入れる構造になっていないこと、交通アクセスの関係で現状では難しいとのことである。また、北海道縦貫自動車道については、当該区間の計画についてはまだ示されていないとのことである。

次に、商工観光課長から観光入込客数及び道の駅なないろ・ななえの売り上げに関する説明があった。

委員からは、観光客の誘客に向けた七飯町の魅力発信の考え方及び南大沼駐車場について質疑があり、七飯町には、自然を活用したアクティビティなどの魅力があることから、これらの情報をさらに発信して、より多くの方に来ていただくよう取り組んでまいりたい。さらに、今後の考え方の一つとして、七飯町のみならず道南地域で協力して広域的に誘客に取り組んでまいりたいとのことである。また、南大沼駐車場については、地元としても大きな影響が出るような事案については、北海道などと十分協議して、地元の不利益にならないように対応していくことが重要であるとのことであった。

以上の説明及び質疑を踏まえ、次回の委員会において、現地調査を行うことを決定した。

(4) 令和2年2月10日に第4回目の委員会を開催し、大沼国定公園内で開催された体験イベント（アイスカルーセル）、南大沼駐車場、道の駅なないろ・ななえ、赤松街道等の現地調査を行った。

(5) 令和2年5月28日に第5回目の委員会を開催し、2月10日に行った現地調査や現在のコロナ禍を踏まえた今後の検討事項について協議を行った。

委員からは、コロナ禍において海外からの観光客の誘客が難しい中、地元の人が訪れる身近な散策の場としての大沼をもう一度見直すという目線に立脚することが必要ではないかとの意見があった。そのため、次回の委員会で再度大沼国定公園等の視察を行うこととした。

(6) 令和2年6月16日に第6回目の委員会を開催し、冬期間には現地調査ができなかった東大沼キャンプ場、城岱牧場展望台について、夏期の観光状況を把握するため、現地調査を行った。

(7) 令和2年10月19日に第7回目の委員会を開催し、北海道縦貫自動車道の工事の進捗状況を把握するため、北海道縦貫自動車道大沼トンネル避難坑工事の峠下工区、西大沼工区の現地調査を行うこととした。

(8) 令和2年10月30日に第8回目の委員会を開催し、北海道縦貫自動車道大沼トンネル避難坑工事の峠下工区、西大沼工区の現地調査を行った。

現地調査終了後、北海道縦貫自動車道の開通を見据えた今後の峠下地区に関する町の考え方について質疑があった。町は、北海道新幹線が札幌まで延伸し、北海道縦貫自動車道が完成すると、峠下地区というのが道南の交通の要衝となり、これから七飯の発展の一つの要になる地区であると考えている。また、北海道縦貫自動車道については、計画路線というのが示されていない中では、示される前に町としても要望してまいりたいと考えている。その際には、議会とも連携をして、町全体としての要望活動ができるのが一番ではないかと考えているとのことであった。

(9) 令和3年2月1日に第9回目の委員会を開催し、報告書に記載する事項の確認を行った。

(10) 令和3年2月22日に第10回目の委員会を開催し、令和3年第1回定例会に提出する報告書のまとめを行った。

2、まとめ。以上がこれまでの調査活動である。

はじめに、北海道縦貫自動車道に関しては、七飯インターチェンジ（仮称）までの開通によって、峠下地区が道南地区の交通の要衝になると考えられる。一方で、現時点では七飯インターチェンジ（仮称）から函館新道までの区間の計画路線が示されておらず、峠下地区をはじめとした町内への誘客という観点から考えると、計画路線が示される前に町と議会が連携して、道の駅周辺の振興を考えた要望等を行う必要がある。

次に、観光資源のあり方については、町内の観光資源のうち5項目に焦点を絞って調査を行ってきた。新型コロナウイルス感染症の影響により、十分な調査活動を行うことができなかったが、当町の観光資源の中で最も重要である大沼国定公園や東大沼キャンプ場に関しては、訪れた観光客が素晴らしい景観と行き渡った管理・サービスに満足し、リピーターとなってくれるような公園づくりが不可欠であり、北海道や町の動向を注視したい。

また、これまでの町の観光施策は、インバウンドなどによる観光客の誘客が主なものであったが、当特別委員会としては、このコロナ禍により観光が団体から個人へと移行している状況下で、地元の方に身近に訪れてもらえる観光地という視点で現状の把握に努めた。今後は、近郊に住む方を含めた多くの観光客に訪れてもらえるよう、地元で活動する方々との意見交換等を通じて、共に観光を盛り上げ、地域振興を促すという長期的な戦略を取り入れることも必要である。

新型コロナウイルス感染症が収束していない現状を踏まえると、「新北海道スタイル」に基づいた地元の受入体制の拡充により、近郊に住む方を含めた多くの観光客が気軽に訪れることのできる七飯町として、広く魅力を発信していくことを望み、当特別委員会の活動報告とする。

以上です。

○田村委員長 ありがとうございます。

ただいま読み上げました報告書の案について、何かございませんか。

青山委員。

○青山委員 1点だけ。3ページの(8)、ほぼ中段なのですけれど。これから七飯の発展のという文言のところを、七飯町発展の一つの要になると変えたらいかがでしょうか。1点のみです。

○田村委員長 もう一度ちょっとお願いします。

○青山委員 3ページの(8)、中段くらいにこれから七飯の発展の、とありますよね。ここはちょっと良くないかなと思って、七飯町発展の、に変えたら、のを町に変えたらいかがでしょうか。

○田村委員長 今青山委員のほうから、七飯の発展を七飯町発展というような文言のほうが適切ではないかというようなご意見ありまして、これについて何かございませんか。

もしなければ、そのように直してよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 それでは、今の文言、七飯の発展を七飯町発展という文言に変えるということで訂正をしてみたいと思います。

そのほか、ございませんか。

若山委員。

○若山委員 何点かちょっと考え方とあれを確認してあれなのですけれど。

まず1ページ目の(2)のところ、今後の調査、研究の進め方について協議を行ったとなっているのですけれど、調査だけでいいのかなと。研究って何か、いつも特別委員会ってこういう言葉を入れるのかなと。ちょっと、調査、研究というのは凄いなという印象を一つ持ったのと、2ページ目の(3)の(4)に近いところの(3)の下か4つ目のところの北海道などと十分協議し、と書いているのですけれど、北海道と協議するという。何故かという、大沼公園の管理者というのは、北海道が管理するというようなあれがあるので、何というのでしょうか、北海道の前に、管理者である北海道にと、か、どういう言葉が良いの

かわからないですけれども、それをちょっと入れたらいかがかなというのが一つです。

同じ2ページの(4)のところの体験イベント(アイスカルーセル)となっているのですけれども、アイスカルーセルってまだ何か一般的に周知されている言葉だとは思えないので、アイスカルーセルの説明を注か何かで入れていただいて、わかりやすくしたほうが良いのかなと思います。

前の函館新聞の記事の中に、アイスカルーセルは、氷湖を円状に切り抜き、湖面に浮かんだ円状の氷を回転させる氷のメリーゴーラウンドのようなもので、主にフィンランドで楽しまれているアクティビティというような説明があって、こういうようなものを注として下に入れたほうがわかりやすいのかなというふうに思いました。

それと、前回のあれで大沼公園の管理とかトイレの問題とかについて、もう少し触れるというようなことで、打ち合わせしていたのかなと思うのですけれども、トイレに関する記述が全くないので、これはもう一般的な管理ということで、あれなのですかね、まとめてしまったということなのですかね。ちょっと、そのところを、見解を含めてお聞きしたいなと思います。

○田村委員長 まず、1点目、1ページ目の研究の進め方。これについては、当初研究をしたいという姿勢があったのですね。観光に向けてどういったような利活用をしていくべきなのかという一つの考え方があったのですけれど。このコロナの関係でなかなか開催ができなくて、研究までは至らなかったというか、実際の現状把握にとどまってしまったということからすれば、当初のそういう考え方はあったのだけれども。今振り返ってみると、研究というのはどうなったのだろうと言われてしまうと、実際にしていないから、削除するのであれば、私はしても構わないのではないかなとは思っています。まずこれ第1点、私の考え方です。

それから、2ページ目の北海道などと十分に協議をして、その北海道の頭に管理者というものをという。こちら辺はこれから皆さんのご意見を聞きながら、付けたほうが良いということであれば、私は特にどうだ、こうだということはないと

思います。北海道は管理者ですけれども、それ携わるサポート的に町も入る、あるいは地元のボランティアが草刈ったりしているという、様々な周りのものがあるので、北海道などというそういう漠然とした表現にしたのですけれども。むしろ、鮮明に管理者である北海道というようなものを入れたほうが、より鮮明になるというお考えであればそのような形をとっていききたいなど。

それから、アイスカルーセル、これについてはご指摘のとおり注釈をつけたほうがむしろわかりやすいのかなというように、これについては、皆さんの意見を聞きながら付けたほうが私は良いのかなと、そう感じています。

それから4ページ目の、ここも北海道や町の動向を注視したいというようなことでまとめさせていただきました。その前段として、訪れた観光客が素晴らしい景観と行き渡った管理・サービスに満足し、というここに我々委員会の思いが込められているのではないかと思うのですけれども、こういうことによって、実際に駐車場の問題だとか、トイレの問題というのは、議会に何ら投げかけられていないというようなことで、そういう北海道あるいは町のそういう動向に注視しながら、きちっと議会として対処していくべきではないかというようなことで、こういう文言の表現にさせていただきましたわけでありませう。以上です。

上野委員。

○上野委員 4ページなのですけれど、一番最初の3行目ですね。七飯インターチェンジから…。その上ですね、インターチェンジまでの開通によって、峠下地区が道南地方の交通の要衝になると考えられるというふうに表現しているわけですが、要衝というのは何を以て要衝というのか。というのは、この高速道路ができることによって、開通したあと、通行が早くなることは確かですけれども。そこで言っている要衝というのは、何を言っているのかというのがちょっとよく理解できなかったのですよ。

そこを発信点として何かできることになるのか、そういうようなことなのか、要衝という意味が理解できないので、その辺ちょっとどうなのかお聞きしたいなど。

それから下のほうなのですけれども、新北海道スタイル、これについてもどこでどういう形でこの新北海道スタイルというのが議論されたのか、記憶にないものですから。もしあれだったら、この新北海道スタイルというのはどういうものなのかというあたりも、先ほど若山委員のほうからも言われたように、説明するような文章が必要かなというふうに思いましたので、この2点。

○田村委員長 4ページ目の要衝というようなことで峠下地区、ここの部分については、北海道縦貫自動車道、これが一説には真つぐ昆布館の上を通過して藤城に着くというようなことで。そういう話もありますし、まだ確定はしていないのですけれども、そういう中で議会としては、砂川インターチェンジですか、ああいうふうな感じで一般道と自動車道のそこら辺の乗り入れの棲み分け等をして、より、あそこら辺を交通の要にしていったほうが。というのは、鹿部のほうにも抜ける、江差の中山峠のほうにも抜けられる、そして国道5号線を通るというそこら辺の道路が集約している箇所だという意味で、そういうむしろ要衝になり得るといふ。なり得るといふよりも、そういう要衝にしていかなければならないといふのが、七飯町としての立場では無いかと思うのです。そういう意味で当然、議会においてもそのような要にしていふことによって、峠下地区の振興を図っていくといふ、そういう流れに結びついていくのではないかといふ意味での表現といふふうに理解をしていただきたいと思ひます。

それから実際、新北海道スタイルという、こういう名称での議論はしてありません。ただ、三密であるとか、そういうコロナ禍における観光のあり方、あるいは迎えた側のあり方というような話の中では、まとめて言ふと、そういう議論がいくつか出てきているといふようなことで、こういう新北海道スタイルというくくりにしてしまったわけでありませうし、ご指摘のとおりこれについてどういふものを指すのかといふ注釈をつけることについては、私は異存ありません。これについても皆さんの意見を聞きたいと思ひますけれども。よろしいでしょうか。

ほかにありますか。

若山委員

○若山委員 すいません。4ページ目の最後のまとめの内容の中の、4ページ目の真ん中あたりで第2パラグラフなのですかね、大沼国定公園や東大沼キャンプ場に関してはということで、大沼国定公園と東大沼キャンプ場が何かこう並列というか、大沼国定公園に関しては、ということでもいいのかなという感じがあるのですけれども。東大沼キャンプ場というのを取り上げた理由というのは、特にあれなのですかね、視察したとかそういうことなのでしょうか。含まれていいのかなという感じなのですかね。

それと、同じパラグラフの最後のところで、北海道や町の動向を注視したいという表現で、これはちょっと。特別委員会の立場がどうなのかちょっと僕もよくわからないのですけれども、弱いのかなと。注視したいというよりも、何かもっと求めるような強い言葉のほうが良くはないのかなというのが、今先ほど説明を聞いてちょっと思ったのですけれども、その点についてはどうでしょうか。

○田村委員長 まず1点目の東大沼キャンプ場。これについては皆さんもご存じのとおり、通年を通してキャンプをしている人がいるということと、それから、キャンプ場と一体的に大沼国定公園と言えばそれまでの話ですけれども。管理上、公園と東大沼キャンプ場というような考え方があったものですから、二つを並べたということと。それから、団体客から個人にという、いわゆるキャンプ、民間のキャンプ場も私たち見てきましたけれども、そういう意味からすると、団体から個人のそういう観光というのか、キャンプというのか、そういうのがどんどん逆に広がってきているということも感じて、こういう並列すれば、大きい小さいがあるかもわからないのですけれども。管理上の問題と、それから団体から個人へというそこら辺を強調したいなということで、キャンプ場をあえて持ってきたと。民間のキャンプ場の表記というのは、できなかったのですけれど、そういう意味からして、こういう表現になったということで理解をしていただきたいと思います。

それから、北海道や町の動向を注視したいというようなことで、これについては、色々議論があるかもわかりませんが、私としては、具体的に道あるいは町から、こうやりましょう、こういうことに協力してくださいというような、そういうものがあれば良かったのですけれども。今回の件については、そういうアクションが無かったというようなことで。あればあるなりの対応というのは当然私たちはしていくべきであるし、しなければならぬと思うのですけれども。今回については、そういう具体的な話がこちらのほうに投げかけて来なかった。来なかったと言えば、失礼なのですかね、投げられなかったということで、知らない顔をしないで、これからも色々な動きについては、気配りを私たちはしていくというようなそういうニュアンスの表現にとどめたわけです。以上です。

ほか、ございませんか。

若山委員。

○若山委員 そういう意味で東大沼キャンプ場について、こういうふうに取り上げてあれするといふのであれば、去年の東大沼キャンプ場の経緯というか、そういうものも触れる必要があるのかなと。特にここで議論したり、取り上げたりすることはなかったのですけれども、視察したときには、コロナの影響で閉鎖というような扱いです。そのあと、町と道と自然公園団体と三者で費用を分け合って、開いて、というような経緯があったのですけれども。その辺のコメントについて、注でもいいので、東大沼キャンプ場の管理のちょっと問題点というようなものを、そこで新聞の記事のような内容を盛り込んだらどうかと思うのですけれども。

○田村委員長 ただ、私どもは調査行った段階では、キャンプ場にも何梁か確かテント張っていたような記憶があるのですよね。全く無いではなくて、1つ2つ張っていたと思うのです。そして、話の中では、通年通して、夏だけではなくて、冬というのか、秋深い時だとかにも張っていますよというような、聞いた記憶があったものですから。私は、管理云々というよりも、むしろ先ほど言ったように団体から個人への観光の移行という

ことを考えて、こういう表現にしたということ。
もう一つには、やはり前提となっているのは、東大沼にしても、大沼公園にしても管理は北海道ということが前提になっているのです。従って、あえてそこを強調する、しないはこれから皆さんの議論だと思えるのですけれども、私は、当然のことは、やるべきことは道としてきちっとやる。そして、サポートできるところは町あるいは地元のボランティアがサポートするというような、そういう関係をきちっと作っていくという意味で、あまり強くやるというよりも、当たり前のことをみんなが当たり前のようにやるということが、一番ベストではないかという思いの中でこういう表現にしたということで理解をしていただきたいと思うのですよね。よろしいですか。

それでは、ほかになれば、ちょっと確認をしてまいりたいと思います。

まず、1ページ目の研究の進め方、これについては、削除しますか、どうしますか。実際、研究までには至っていなかった。

神崎委員。

○神崎委員 一応、調査目的でそのように謳っていますので、それはそのまま…。

○田村委員長 結果は別として。

○神崎委員 別として、と思います。

○田村委員長 わかりました。そしたらこのままの文章でよろしいでしょうか。

上野委員。

○上野委員 そういう調査、研究ということを挙げて取り組んだと。その結果、研究ということについては十分にできなかったという文章はあとで最後にまとめの中で触れる必要があるのではないかと、その辺について。

○田村委員長 どうでしょうか皆さん。最後のまとめのどこら辺の文言を入れるかは別にしても、実際に研究までには至らなかったというような文言を入れたほうがいいのかということですから。

青山委員。

○青山委員 ただ今の中の話の中で言うと、確かにお題目で当初この特別委員会がスタートした時点ではコロナというのはなかったわけです。

実際調査していく中でなったということで、まともに、今上野委員から入れてはということなのですが。1ページ、2ページ、3ページを見ますと、内容としては、コロナの状況で自分たちの本分が達成できていない旨は受け止められる、私は受け止められています。

従って、それをあえて書くのか書かないのか、それは各委員に判断をしてもらえれば良いのかなとは思いますが。私は、これ全体読んだ中ではそれがくみ取れるのではないかなと思っています。

以上です。

○田村委員長 ほかに、これについてどうでしょうか。

若山委員。

○若山委員 上野委員のおっしゃる内容も理解できないことはないのですけれども。あえてできなかったことを羅列する必要がなくて、できたことだけを、やれたことを説明するというか、そういう報告で十分なのかなと思います。できていないことを言ったら、もっといっぱい色々書かなければいけないことが出てくるかもしれないというようなことがありますので。気持ちは、上野委員と同じなのですけれども。僕も研究と思ったら、よくよく見たら、特別委員会の目的が研究になっているので、そういう意味ではこれでも十分研究のちょっと端緒というのですか、それもあるのかなと思いますので、あえてそういう文言はなくてもいいのかなと僕は思います。

以上です。

○田村委員長 ほかに。もし無ければ、この研究については、このままの形でいきたいというふうに思いますので、一つよろしくお願ひしたいと思います。

それから、2ページ目の中段、先ほど出しましたがけれども、北海道などと十分協議して、の北海道の前に管理者を置くか置かないかというような。そういうような、どうだろうかという、そういう意見出しましたがけれども、あえて載せますか。管理者である北海道というような表現にするか。影響が出るような事案については、北海道等と十分協議してというような。難しいと言えば、難しい。

この部分については、どうでしょう。入れますか、管理者である北海道という。ちょっと強いかなという気がしないでもないのですけれども。

普通のその感覚では、管理者と言わなくても、大沼の管理は道なのだという一つの、当たり前と言えばおかしいのですけれども、通じている話をあえてまた管理者であるというようなことになれば、何かあるのかなというようなのがあろうし。なかなか微妙だなと思うのですけれども。

神崎委員。

○神崎委員 もしあれでしたら、2ページの真ん中から下のところに、北海道などと十分協議してとあるので、そこに入れたらどうでしょうか。管理者である北海道を入れたら、その上のほうで等という感じで色んな団体があるよという委員長の思いがここでどうでしょうかね。

○田村委員長 そうすると、ここには地元としても大きな影響が出る事案については、管理者である北海道などと十分協議してというような。

(発言する者あり)

○田村委員長 よろしいですか。

若山委員。

○若山委員 すいません。言い出しっぺでこういうのをあれなのですから。これは、あれなのです。商工観光課長の説明の内容の文章なのです。ですから、この文章については、我々が何か意味を追加するとか何とかなるとちょっとあれなので。こういう流れになるのであれば、委員長言うとおりの北海道が管理者というのは当たり前というか当然の前提でのあれだということであれば、それはそれであれだと思えますけれども。とのことであつた、という内容なので、そのときの内容そのままです。ここを変えるとちょっとまたあれなのかもしれないので。

○田村委員長 わかりました。私もちょっと勘違いしてあれしましたけれども。これはこのままの文章でいくということでした承願したいと思います。

それから、下のほうの(4)アイスカルーセル、注釈をということで。これについては、事務局に、注釈を簡単に、どういうものかというものを書いていましたか。

そしたらこの注釈については、私どものほうにお任せ願えませんか、中身については。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 一つよろしくお願ひしたいと思ひます。

これは確認しましたけれども、3ページは七飯の発展ではなくて、七飯町発展というように直していくということでもよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから4ページ目、これについては、上野委員から出ました北海道スタイル。これについてもどういうものを指すのかという注釈をつけていきたいと思ひますので、これについてもどっかに貼っていたよね。北海道スタイルとか。

(発言する者あり)

○田村委員長 そういうことで、これについても私どものほうにどういう表現になるのか、簡単にわかりやすく入れていきたいと思ひますので、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 それでは、他に何かございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 もしなければ、このような形で訂正をし、また、加筆をして報告書を提出していきたいと思ひます。一つよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、協議事項のその他でございますけれども、これについてはまた何かありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 無いようでございますので、本日のこの特別委員会これで終わらせていただきます。

本当に、10回ありがとうございました。

ご苦労様でした。

午前10時43分 閉会

